

2007 年頭所感

学校法人 専修大学理事長
専修大学長

日高 義博

「オール専修」の団結で 喜び分かち合う1年に

明けましておめでとうございます。2007年の年頭にあたりご挨拶を申し上げます。

まずは、一昨年より5年計画で実施中の創立130年記念事業資金募金に対しまして、数多くの方々にご賛同とご協力を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

昨年11月に学校法人専修大学の理事長を拝命し、法人の理事長と専修大学長を兼務して初めての新年を迎えました。今年は大学全入時代の始まりだと言われておりますが、既に「大学が学生を選ぶ時代」から、「学生が大学を選ぶ時代」に変わってきています。大学が二極化していく中で、本学はその分水嶺に立ち、この2、3年においてどのような施策を講ずることが出来るかにより、本学の10年後の姿が決まります。発展を期すためには、2009年の創立130年までに大学改革の成果を出す必要があります。

専修大学長に就任してから一貫して、本学の21世紀ビジョンである「社会知性の開発」の具体的推進と「学生を基本に据えた大学づくり」を諸策の骨格として、積極的な大学運営を行ってまいりました。大学教育によって学生に社会知性を身につけさせ、社会の屋台骨を支える有為な人材を輩出するとともに、大学の研究力によって社会のあるべき姿を「知の発信」として提示していこうとしています。理事長としてもこの方針に変わりはなく、専修大学・石巻専修大学・北海道短期大学の3大学がこの基本理念を実践し、その共通基盤をさらに骨太なものにしていくことが重要であると考えます。

専修大学は、2009年の創立130年に向け、現在、さまざまな記念事業を展開しております。生田校舎では、生田10号館の建設が4月からの利用開始に向け着々と進められております。また、向ヶ丘遊園駅にはサテライトキャンパスを開設することも決定しています。さらには、新学部設置構想が大詰めの局面を迎えており、まもなくその概要をお示し出来るよう準備を進めております。

石巻専修大学は、来年創立20年を迎えますが、昨年10月に完成した自動車工学センターがいよいよ本格稼働いたします。そして、地域社会に根ざした「社会知性の開発」として高大連携事業を拡大し、地元企業との産学官連携の研究活動などを積極的に推進します。

北海道短期大学は、今年が創立40年となります。この記念すべき年に向けて準備したさまざまな試みが花となって開くことでしょう。また、新しい学長を迎え、原点である地域と農業に根ざした大学として、地域社会の発展に更に貢献していくことを期待しています。

本学においては、法人と教学が一致協力していく態勢が整っており、キャンパスには学生と教職員の活気と情熱が溢れています。そして、校友会と育友会の強力なバックアップを得ながらオール専修の総力を結集するならば、必ずや大きく飛躍出来るものと信じております。今や座して物事を眺める時代ではありません。先頭に立ち局面を切り開き、果敢に舵を取っていきたいと思います。そして、専修大学にかかわる皆様が「社会知性の開発」に向けそれぞれの立場から活躍され、本学の発展のため鋭意尽力されるならば、活力みなぎる大学となりましょう。

オール専修が団結し、共に励まし合い、喜びを分かち合うことの出来る良い1年になることを祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。



法科大学院・今村力三郎記念ホールにて

生田10号館(仮称)

竣工に向け順調に進捗

3月に竣工を迎える生田10号館(仮称)の新築工事は、全日程の終盤に差し掛かり外壁足場が一部解体され、タイル(一部石張り)の外壁が姿を現した。

外壁は、隣接する9号館との統一感を持たせた淡いピンクの磁器タイル、一部北側低中層部分には花崗岩(かこうがん)が使われている。同時進行で行われている設備(空調・衛生・電気等)工事や内装工事も順調に進捗しており、既に低層階部分では天井ボードが張られるなど、教室としての全容も見え始めた。今後、上層階に向かって同様の工事を完了させ、備品の納入を行う予定。新たな「知の発信拠点」の竣工が楽しみである。



▲一部防護ネットがはずされ、石張りの外壁が姿を現した生田10号館(仮称)